

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

地域資源を活かした都市と農山村の交流
～ 湖北の懐かしい未来をつくる～

2 地域再生計画の作成主体の名称

滋賀県

3 地域再生計画の区域

長浜市及び米原市並びに滋賀県東浅井郡虎姫町及び湖北町並びに伊香郡高月町、木之本町、余呉町及び西浅井町の全域

4 地域再生計画の目標

【地域特性】

地勢

本地域は滋賀県の東北部に位置し、近畿・東海・北陸の結節点となっている。東に位置する伊吹山系は岐阜県との県境に連なっており、1,377mを誇る伊吹山は滋賀県下の最高峰でもある。西は日本最大の琵琶湖に面し、その琵琶湖と山地部の間を南北方向に平野部が広がっている。また、姉川、高時川などによって形成された沖積平野は、長浜市付近を中心に南北方向に展開しており、ほ場整備が完了した農地には米作を中心とした農業が展開されている。市街地、集落は地域を南北に縦貫する国道8号線などの街道沿いに分布し、琵琶湖の東岸沿いには周遊道路が整備されている。

歴史

本地域は、古くから東国、北国と畿内を結ぶ交通の要地として栄えてきた。特に、北陸道、中仙道の結節点として戦略上も重要な地域であり、賤ヶ岳や姉川古戦場など、織田信長や豊臣秀吉といった武将に関わる多くの戦乱の帰趨を決着させてきたところでもある。

また、本地域は物流上の要衝でもあり、東日本の多くの街道は琵琶湖をめざし、当時の湖上交通の隆盛とも相まって大いに利用され、その流れは現在の高速道路や鉄道などの広域交通網の形成に結びついている。

産業面では、姉川や高時川などによってつくられた沖積平野では米作が、また、山間部では薪炭生産が行われ、さらに江戸時代中期からは、長浜を中心とする養蚕が盛んとなり、ちりめんの製造販売によって大いに潤った。その後、第二次大戦後の産業構造の急激な変化により、滋賀県の地場産業をはじめとする地域経済も大きな影響を受け、時代とともに変遷を遂げた結果、現在では、第二次産業の割合が全国第1位となる製造業主導の産業構造となっている。特に、近年では交通の要衝として、主要な広域交通網の通過する本地域の好立地条件が評価され、企業の進出意欲が高い。

【地域再生計画の意義】

湖北エコミュージアム構想

本県では、豊富な地域資源を活かす地域づくりを住民と行政が一体となって行っている。特に、この湖北地域には、自然環境、歴史文化、生活文化、人と人とのつながりといった地域資源が豊富に存在している。これらを活用する地域づくりを住民と行政が一体となって行おうとするのが「湖北エコミュージアム」である。

エコミュージアムとは、ある一定の地域を領域とし、その地域を特徴づける自然環境、文化財や史跡、伝統的な生活文化、地場産業等を過去から未来に引き継いでいくべき地域の資源と捉え、それらの保存、調査研究や来訪者への説明などの活動を、住民が主体となって現地で行うことにより、地域全体を「屋根のない博物館」に見立てようとするものがある。エコミュージアムが地域にもたらすものとしては、住民が博物館の学芸員のような活動を行うことにより、自らの地域を深く理解し、地域に対する誇りや愛着、過去から未来にわたる地域の課題への関心が生み出され、自治意識の高い住民が暮らす持続的な地域の創造につながる事が挙げられる。また、湖北を訪れる人々に地域の姿を生き生きと伝えることができるようになるため、集客力の強化による地域の活性化が期待できる。

都市と農村の交流

豊富な地域資源に恵まれた湖北地域ではあるが、中山間地域にある農山村集落のほとんどが、高齢化や後継者不足による遊休農地の拡大、空き家の発生、さらには、食や暮らしにまつわる伝統文化の継承が難しくなるなどの課題を抱えている。一方で、近年、自己実現の意識の高まりによる価値観やライフスタイルの多様化から、農山村の持つ自然環境や美しい景観などの地域資源に対して関心が高まり「田舎暮らし」や「自然志向」などが、都市住民を引きつける魅力になっている。特に、JRの琵琶湖環状線構想の実現を控え、京阪神や名古屋方面からのアクセスにすぐれた湖北地方は、都市から地方への移住の地としてもすぐれた特性を備えている。

この農山村の持つ課題を解決し、都市住民の「ゆとり」や「やすらぎ」、「いやし」、「ふれあい」などの求めに応えるために、都市と農山村が積極的に交流を図り、それぞれの住民が豊かさを得ることが、ひいては、豊かな湖北地域の未来へとつないでいくことになる。

都市と農村の交流を支える基盤づくり

都市と農山村の交流をこれまで阻害してきた要因として、都市の住民にとって農山村と交流するための機会が少ないうえ、情報の発信側と受け手側にミスマッチが垣間見られること、都市住民が感じている農山村の魅力について農山村の住民が地域資源として十分に認識していないこと、さらには、都市住民を迎え入れるための農山村側のホスピタリティのノウハウが十分に確立されていないことなどが挙げられる。

これらの阻害要因を取り除き、都市と農山村の交流を活性化させるためには、都市と農山村を双方向で行き交うライフスタイルの実現に向けた明確な戦略づくりや都市農山村相互の情報の受発信機能の強化、農山村側の魅力ある受け皿づくりなどについて、一過性でない長期的視点に立った活動の展開が必要である。

当地域においては、地域に密着し、多様な技術や知識を持っている非営利の活動を行う民間のNPO団体等がすでに活動をはじめていることから、これに行政や企業、住民などが協働して、地域の特性を活かしてきめ細かいプログラムを継続的に実施することができるような体制の整備が効果的であり、急務となっている。このような体制のもと、地域と一体となり、都市と農山村の交流を進め、それぞれの暮らしを縫い合わせることにより、湖北エコミュージアム構想を推進し、湖北の懐かしい未来の構築をめざす。

【地域再生計画の目標】

今回の取り組みにおいては、以下のことについて達成することを目標とする。

(1) 都市と農山村の交流する機会 (ワークショップおよび見学会) への参加者数

(湖北古民家再生ネットワークが主催)

	平成 1 7 年度		平成 2 0 年度		平成 2 2 年度
参加者数	2 0 0 人		3 0 0 人		5 0 0 人

(2) 都市と農山村の交流の拠点となる、古民家再生の実施数

(湖北古民家再生ネットワークがプロデュース)

	平成 1 7 年度		平成 2 0 年度		平成 2 2 年度
実施数	3 棟		5 棟		1 0 棟

(3) 地域の受け皿となる、地域のネットワークへの参画者数

(湖北古民家再生ネットワークへの参画)

	平成 1 7 年度		平成 2 0 年度		平成 2 2 年度
参画者数	2 0 人		3 0 人		5 0 人

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

この地域に伝わる伊香造りの古民家や旬の自然食、薬草による健康法を活かし、地元住民をはじめ、NPO法人、地元企業が連携して都市と農山村の交流を図ることにより、地元の人々が地域の資源を再発見し、また、都市の人々が懐かしい体験をすることで、それぞれの暮らしを縫い合わせながら、持続可能な未来へつなげていく。

そのうち、平成 18 年度は、地域再生に資するNPO等の活動に対する支援を受けて、「湖北古民家再生ネットワーク」が湖北のかけがえのない資源である伊香造りの古民家について、現状やニーズを把握するための調査を行うとともに、協働事業の計画策定に向けた研究事業や協働事業を推進するための情報発信事業を実施する。

5 - 2 法第 4 章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 基本方針に基づく支援措置による取組み

【地域再生に資するNPO等の活動支援】(C2001)

湖北古民家再生ネットワークが実施する事業の基本的な方針は、次の通りである。

地域を見る（実態を調査し、現状を知る）

本物を見せる（再生事例見学会、ワークショップの開催）

情報を共有する（住み続けたい人、住み移りたい人、譲りたい人、ほしい人をつなぐ）

仲間をつくる（広くつなぐと、大きな力になる）

ノウハウを学びあう（知識や技術を習得する）

以上を踏まえて、平成 18 年度においては、具体的に以下の事業を実施する。

地域の現状・地域のニーズを把握するための調査

(1) 湖北における古民家の分布実態調査

空き家で放置されている古民家をはじめ、地域で受け継がれてきた民家について、大学と連携しながら実測、聞き取りなどの実態調査を実施し、地域の資源として有効な活用方法を検討する。

(2) 古民家再生に対する住民の意識調査

古民家の住民および空き家古民家の所有者に対し、今後の活用方法について意識調査を行い、地域資源としての古民家の活用方法を探る。

協働事業の計画策定のための研究事業

(3) 研究会の開催

古民家再生に係るアクションプラン作成のための研究会を開催し、古民家再生に関わる情報ストック・共有と、再生の担い手を中心としたネットワークの形成・拡大を行う。

協働事業を推進するための調査・研究に資する情報発信事業

(4) 古民家再生事例見学会や都市農村交流ワークショップ

再生された古民家を見学するとともに、実際に古民家に宿泊し、農作業等の体験や地域の住民等と交流することで、定住や別荘としての可能性を探る機会を提供する。

(5) 古民家再生シンポジウム

(1) ~ (4) の成果を踏まえ、今後のあり方を探るために情報交換、意見交換を目的としたシンポジウムを開催する。

【湖北の伊香造り古民家の継承と活用事業】

平成 18 年度の助成事業に引き続き、平成 19 年度以降も下記の内容について事業実施する。

古民家での懐かしい暮らし体験	<p>古民家再生事例見学会</p> <p>伝統的な伊香造り古民家の再生事例を見学し、その良さを認識し、将来的に移住に向けて賃貸や購入の可能性を探る機会を提供する。</p> <p>都市住民の古民家移住へ向けた体験ワークショップ</p> <p>実際に古民家に宿泊し、農作業等の体験や地域の住民等と交流することで、定住や別荘としての可能性を探る機会を提供する。</p> <p>伊香造り古民家の実態調査</p> <p>空き家で放置されている古民家をはじめ、地域で受け継がれてきた民家について、学生による実測、聞き取りなどの実態調査を実施し、地域の資源として有効な活用方法を検討する。</p>
----------------	---

5 - 3 - 2 関連事業

【地域の拠点における地域資源活用事業】

薬草で癒し体験	<p>都市の住民によるお風呂とお灸で癒し体験 (古民家宿泊体験・日帰り体験)</p> <p>地域で伝統的に受け継がれてきた特産の薬草を用いた健康づくりを、風呂やクリニックなどを備えた「健康パークあざい」を活用して体験する機会を提供する。</p> <p>薬草を活かした癒しの健康プログラムの開発</p> <p>特産の薬草を用いた健康法(お灸や入浴剤)を現代に受け入れられる癒し的手段とするノウハウを研究開発し、体験プログラムに活かす。</p>
---------	--

<p>地域の伝統食で旬の味わい体験</p>	<p>都市の住民による旬の伝統食の味わい体験 都市の住民による旬の食材採取体験 （山菜やキノコなど） 都市の住民による旬の食材を使った調理体験 地域の旬の食材を使った伝統的な食を提供するとともに、食材の採取や調理も併せて体験するプログラムを、旬の食を提供するレストランを備えた「健康パークあざい」を活用して実施する。 地域の住民に対する伝統食調理の学習会 旬の食材を使った伝統食図鑑の作成 農山村においても味わう機会が少なくなった懐かしい伝統食を、都会の住民に提供するために、地域の住民が再評価し継承するためのきっかけづくりとして学習会を開催するとともに、図鑑として収録して地域の住民に広く周知する。</p>
-----------------------	---

【湖北エコミュージアム構想】

～ 湖北の地域資源を活かす、住民と行政協働の地域づくり ～

エコミュージアムの手法を採り入れ、湖北地域の豊富な地域資源を活かす地域づくりを住民と行政が一体となって行おうとするもので、平成13年度の「みんなで考える湖北の地域づくり懇話会」の提案を実現しようとする取り組み。

取り組み状況

・マスタープランの策定

平成14年度から15年度にかけて、地域資源を活かした活動されている住民の方々や学識経験者、管内市町などとともに、湖北エコミュージアムマスタープランを策定した。

・マスタープランの実現に向けた運営組織とコア施設の整備

マスタープランに基づき、平成17年度から住民と行政による運営組織のもとで本格的な事業展開を実現するため、自然や歴史的遺産、生活文化など地域固有の資源の保存や、その調査研究などの様々な活動が行

われている場所をサテライトと位置づけ、その候補となるような活動をしている地域や住民の代表、湖北地域管内の市町、関係団体等で組織する「湖北エコミュージアム推進協議会」を平成17年6月に立ち上げるとともに長浜市内に湖北エコミュージアムのコア施設となる総合案内所を設置している。

- ・エコミュージアムの学芸員として活躍できる人材の育成

エコミュージアムについての理解を深めてもらうとともに、湖北エコミュージアムにおいて地域学芸員として活躍できる人材を育成することを目的に、平成17年度から湖北地域学芸員養成講座を実施している。

- ・サテライトのモデルとなる活動の支援

地域における機運醸成を図り、サテライトモデルの整備促進を図るため、先駆的な活動を行っている団体等に対する補助制度を設けている。

- ・サテライト等を巡るエコツアー - の実施

サテライトを巡るツアー - を企画することによって、来訪者と地域住民との交流の場を生み出している。

このツアー - によって、来訪者には本物体験が、地域には地域の良さの再認識や活動の活性化などの相乗効果が期待されるほか、リピーター - の確保や情報発信、活動資金の確保などの効果も期待されている。

- ・マスタープランの実現に向けた諸準備の推進

マスタープランに基づき、平成17年度からの住民と行政による運営組織のもとでの本格的な事業展開を実現するため、サテライトの候補となるような活動をされている住民団体の方々や管内市町、関係団体で構成する湖北エコミュージアム推進協議会を立ち上げ、構想実現のための取り組みを具体的に実施している。

6 計画期間

認定の日から平成21年3月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

「4 地域再生計画の目標」に示す目標数値に照らしながら、その達成

状況について、有識者等の第三者による評価を得ることとする。得られた評価に基づき、地域再生計画として実施する事業の必要性、有効性、効率性、優先性、将来性、住民満足性などを検証し、今後の事業展開に反映させる。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし